

2010年11月5日

＜ダイキン「第15回 現代人の空気感調査」＞

11月9日(いい空気)にちなみ、1万人に聞いた「空気に対する意識変化の調査」

イマドキの“健康づくり”は“空気づくり”が肝心

～ 空気はもう「タダじゃない」？ だけど「お金はかけたくない」！？ ～

ダイキン工業株式会社は、全国の20代～60代の男女1万人を対象に「空気に対する意識変化」をテーマにしたアンケートを実施しました。

「現代人の空気感調査」は、「空気」に関する現代人の意識を浮き彫りにすることにより、日頃意識されない「空気」について、多くの方々に関心を持っていただくことを目的に、2002年から実施してきました。15回目となる今回の調査は、日本電機工業会が制定する“11月9日＝いい空気（換気の日）”にちなんで、昨年の新型インフルエンザなど、近年社会問題化しているパンデミックの影響により、2002年、2007年の調査から日本人の空気に対する意識がどのように変化したのかを、浮き彫りにすることを目的としました。

調査の結果、9割以上の方が空気と健康の関係性を認識しており、“健康づくりには「きれいな空気」が欠かせない”という意識を持っていることが分かりました。今まで日常生活の中で気にならなかった「空気」と「健康」の関係を、昨年のパンデミック騒動で、多くの方が意識するようになったと考えられます。

当社が、2002年、2007年に実施した＜日本人の3大無料（タダ）モノ調査＞および＜空気の3大理想郷調査＞に加えて、“空気について将来心配なこと”や“空気のコスト意識”についても比較したところ、「ウィルス・細菌による空気感染への心配」といった「健康」と関連した空気への不安感が高まっていることが分かりました。一方で、1か月のおいしい空気代に大きな変化は見られず、不況、円高といった経済不安を抱える今の日本では、空気にかかる財布の紐は引き続き固い状況であることが伺えます。

本調査の主な結果は以下の通りです。

I. 健康の秘訣は、“空気を読む”こと！？…………… P.2-4

- I-1) 92%の人が、「空気」は「健康」と関係があると回答。
- I-2) 「きれいな空気」は、目や鼻などの部分的なところよりも、健康など身体全体への貢献度が高い。
- I-3) インフルエンザに“かかった後”よりも、“かかる前”の方が「空気」に対して神経質！？

＜2002年、2007年調査との比較＞

II. 日本人の3大無料モノ「空気・水・安全」への不安、半数が「安全」と回答…………… P.5

- II-1) 将来心配なのは？ 1位「安全」、2位「水」、3位「空気」。でも、女性は「水」より「空気」が心配。
- II-2) 「空気」の意識に変化。「ウィルス・細菌による空気感染」が3位に急上昇。

III. 無料モノ「空気」のコスト意識高まるも、月1,281円と節約傾向続く…………… P.6-9

- III-1) 「空気」のコスト意識が“ある”人は、年々増加傾向に。2002年に比べ、1割上昇。
- III-2) 「1か月のおいしい空気代」は、1,281円で、依然節約の傾向に。空気に気前がいい県は「宮崎県」で平均1,854円。
- III-3) 「おいしい・快適な空気」を得るために、普段は「空気清浄機」、たまには「緑・森林浴」。
- III-4) 4割以上の方が、空気清浄機を所有。

IV. 空気の3大理想郷は、「屋久島」「日本アルプス」「白神山地」…………… P.10

- IV-1) 国内は、「屋久島」が2連覇。常連の「富良野」を僅差で上回り「白神山地」が初のベスト3入り。
- IV-2) 海外は、「アルプス」が3連覇。「ロッキー山脈」「モンゴル大草原」と続き、2007年と順位変わらず。

【国内】

1位	屋久島	33.0%
2位	日本アルプス	23.8%
3位	白神山地	16.0%

【海外】

1位	アルプス	59.5%
2位	ロッキー山脈	19.9%
3位	モンゴル	13.6%

【調査概要】

- 表 題 : 空気に対する意識変化の調査
- 調査主体 : ダイキン工業株式会社
- 調査方法 : アンケート調査（インターネット調査による）
- 調査期間 : 2010年10月16日（土）～17日（日）
- 調査対象 : 全国の20代、30代、40代、50代、60代の男女
- 回答人数 : 10,300名（男性5,150名、女性5,150名） ※内訳は下表の通り

年齢	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	1,030	1,030	1,030	1,030	1,030	5,150
女性	1,030	1,030	1,030	1,030	1,030	5,150
合計	2,060	2,060	2,060	2,060	2,060	10,300

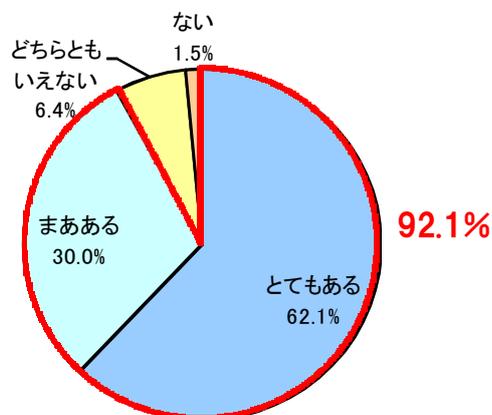
I. 健康の秘訣は、“空気を読む”こと！？

I-1) 約9割の人が、「空気」は“健康”と関係があると回答。

新型インフルエンザなどのパンデミックの影響を受けて健康が脅かされる昨今、「空気」と“健康”がどの程度結びつけて意識されているかを知るため、「空気」は“健康”と関係があると思うかを聞いたところ、「とてもある」(62.1%)と「まあある」(30.0%)を合計すると92.1%の人が、関係があると答えました。

目に見えない「空気」も“健康”という観点では、多くの方が意識されていることが浮き彫りになりました。

図1:「空気」は私たちの健康と関係があると思いますか？ <n=10300>



I-2) 「きれいな空気」は、目や鼻などの部分的なところよりも、健康など身体全体への貢献度が高い。

「きれいな空気」が、具体的にどのような効果・影響を与えるかを聞いたところ、「健康を促進する」(28.5%)という回答が最も多く、続いて、「病気を予防する」(16.1%)、「気管支・肺によい」(15.7%)と、身体面での“健康”に与える効果・影響が上位3位を占める結果となりました。

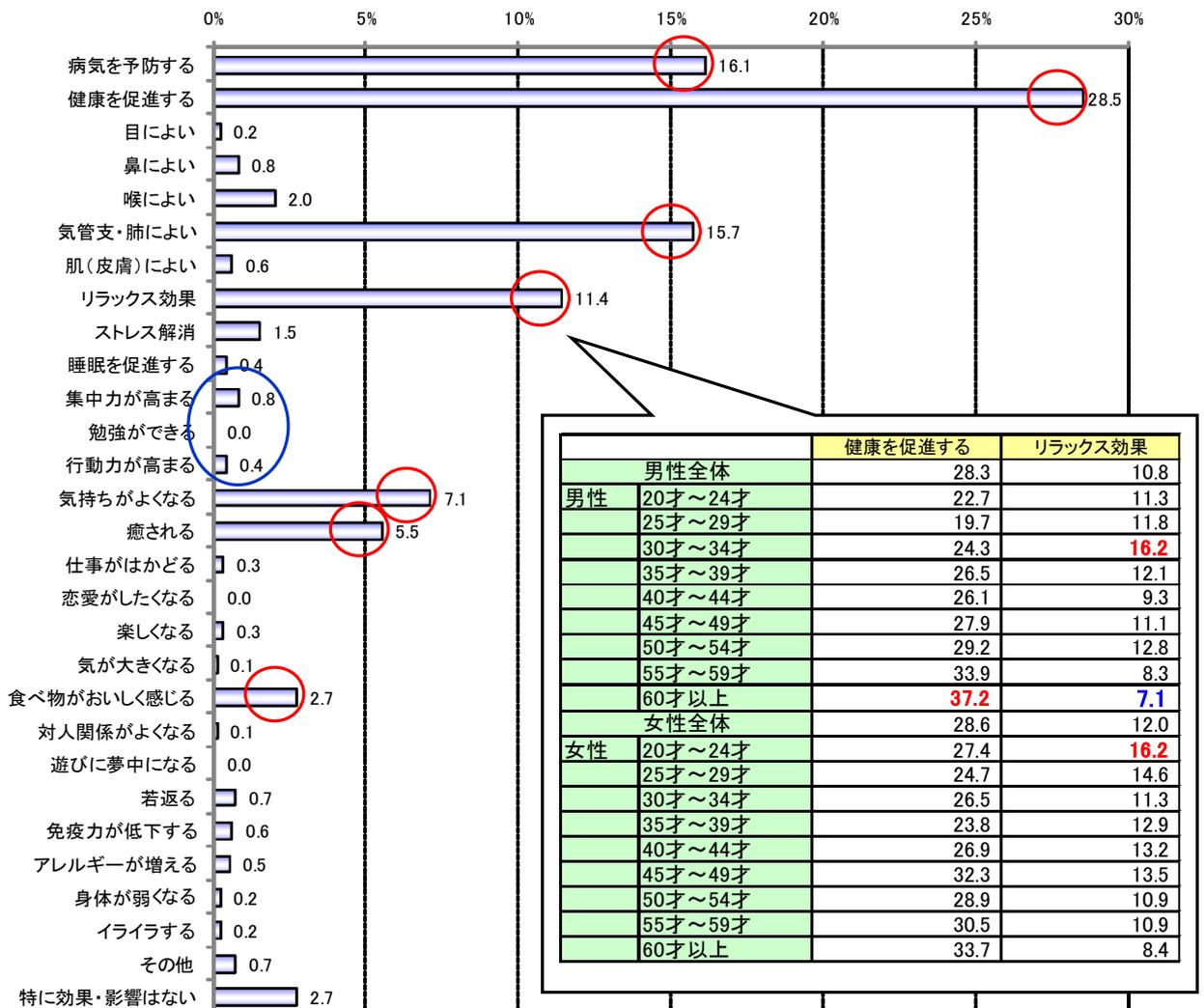
「きれいな空気」は、目や鼻などの部分的なところにとどまらず、健康といった身体全体への貢献度が高いことが伺えます。

さらに、「リラックス効果」(11.4%)、「気持ちがよくなる」(7.1%)、「癒される」(5.5%)といった、精神面での“健康”に与える効果・影響についても比較的多くの人が認識しているようです。しかし、「集中力が高まる」「勉強ができる」「行動力が高まる」といった回答は少なく、「きれいな空気」は精神を“研ぎ澄ます”というより、“開放する”役割を担っていると意識している人が多いようです。

「リラックス効果」と回答した人を性別・年齢で見ると、最も高いのが、働きざかりの30~34歳の男性(16.2%)と20~24歳の女性(16.2%)となっており、社会生活でストレスを感じている人は、空気に対して精神面での依存が大きいようです。また、最も低いのは、60歳以上の男性(7.1%)で、この世代の男性は逆に、「健康を促進する」(37.2%)が最も多い結果となりました。定年後仕事のストレスから解放され、健やかにセカンドライフを楽しみたいアクティブシニア層の高い健康志向が、空気への意識にまで反映されています。

「その他」と回答した人からは、「生きる糧になる」「生命の源のひとつ」といった、「空気」は“健康”を包括する“命そのもの”という回答も寄せられました。

図2:「きれいな空気」は、私たちにどんな効果・影響を与えると思いますか？最もあてはまるものをひとつお選びください。 <n=10300>



I-3) インフルエンザに“かかった後”よりも、“かかる前”の方が「空気」に対して神経質！？

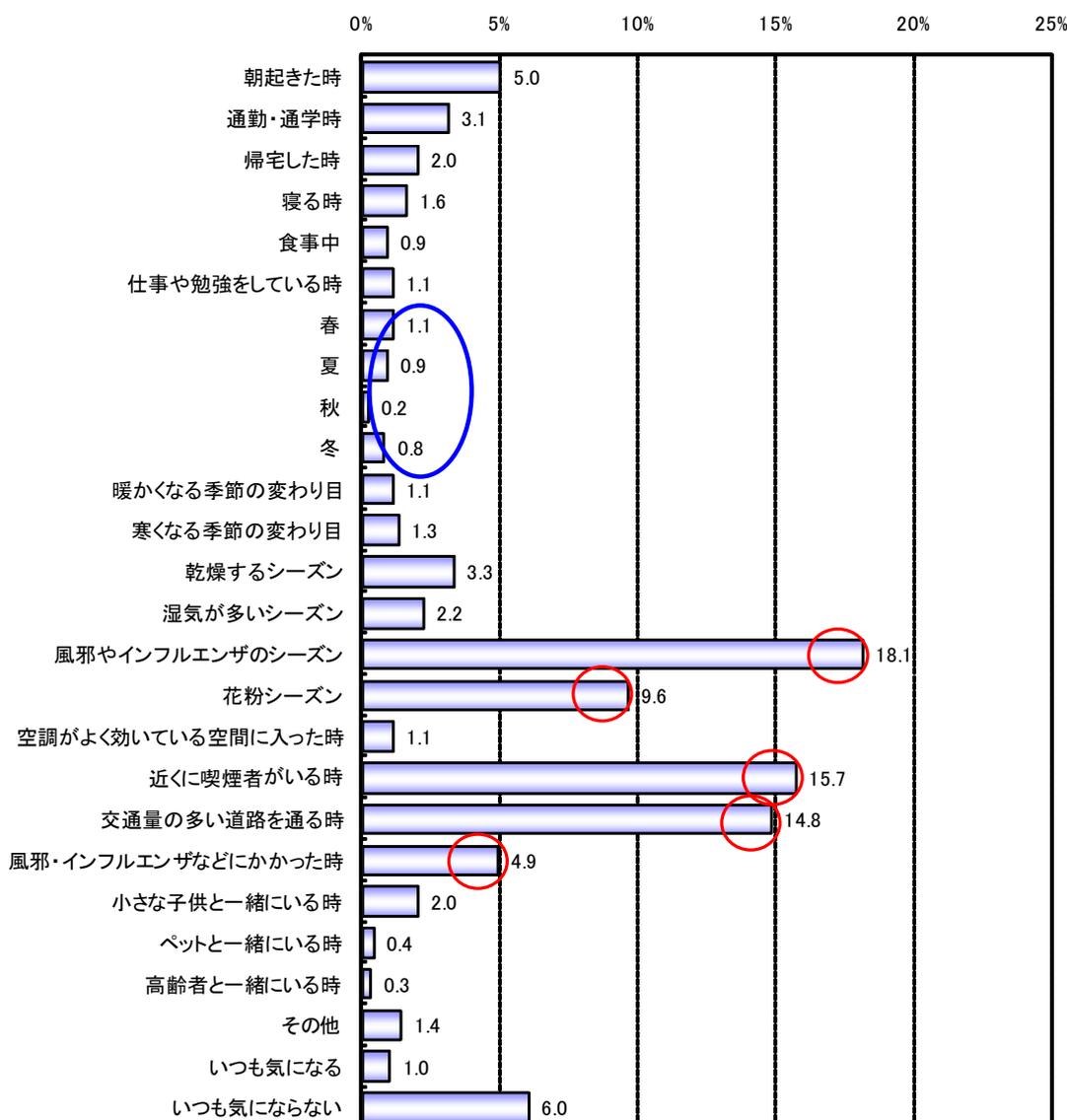
「空気」が気になる時を聞いたところ、1位「風邪・インフルエンザのシーズン」、2位「近くに喫煙者がいる時」、3位「交通量の多い道路を通る時」、4位「花粉のシーズン」という結果になりました。いずれも、身の回りの「空気」の変化によって、健康が脅かされるという危機感を感じる時、健康を守るために「空気」を意識する傾向があると考えられます。

併せて、「風邪・インフルエンザのシーズン」(18.1%)と「風邪・インフルエンザなどにかかった時」(4.9%)を比較すると、インフルエンザにかかった後よりも、かかる前の“予防段階”に、より敏感になっていることが分かります。

性別や、子供の有無で見ると、1位の「風邪・インフルエンザのシーズン」については、全体平均が18.1%であるのに対し、男性では14.0%と全体より低い結果になっています。逆に女性は、22.1%、特に子供を持つ女性においては25.3%と平均を大きく上回っており、家族の健康を守る立場として、空気を意識していることが伺えます。

一方で、全体的に見ると春・夏・秋・冬は1%弱にとどまり、季節によって空気を気にする習慣も薄れていることが伺えます。古来、日本人は、風土特有の四季の移ろいによって生まれる風や空気の様子を和歌、俳句に詠うなど、四季に合わせて空気を感じとる微細な感覚を持っていましたが、最近は四季の変化が意識しづらい気候も多いことから、季節での感覚が失われつつあるのでしょうか。

図3:「空気」がいつも以上に気になるのはどんな時ですか？最もあてはまるものをひとつお選びください。 <n=10300>



Ⅱ. 日本人の3大無料(タダ)モノ「空気・水・安全」への不安、半数が「安全」と回答

Ⅱ-1) 将来心配なのは？ 1位「安全」、2位「水」、3位「空気」。でも、女性は「水」より「空気」が心配。

「空気・水・安全」の中で、将来最も心配なものを、2002年、2007年の結果と比較しました。今回は、新型インフルエンザなどの影響で、「空気」に対する不安感が高まっていることが予想されましたが、「安全」への不安度が増すという結果となりました。

「安全」については、過去最高の50.1%と、全体の半数が不安を感じています。犯罪の凶悪化や低年齢化が連日マスコミで報じられ、安全神話が揺らぐ現代の日本では、自分や身近な人が犯罪に遭うかもしれないと不安が多くなっていると考えられます。また緊迫する外交関係やテロ・無差別犯罪の増加といった、不安定な国際情勢も影響していると思われます。

性別でみると、女性の場合は順位が逆転し、「水」より「空気」の方が心配だということが分かりました。女性は、家族の健康を守る立場として、“新型インフルエンザの流行”などをより身近な問題ととらえ、「空気」に対して高い危機意識を持っていると考えられます。

図4:「空気」「水」「安全」のなかで将来最も心配なものは何ですか？ <n=10300>

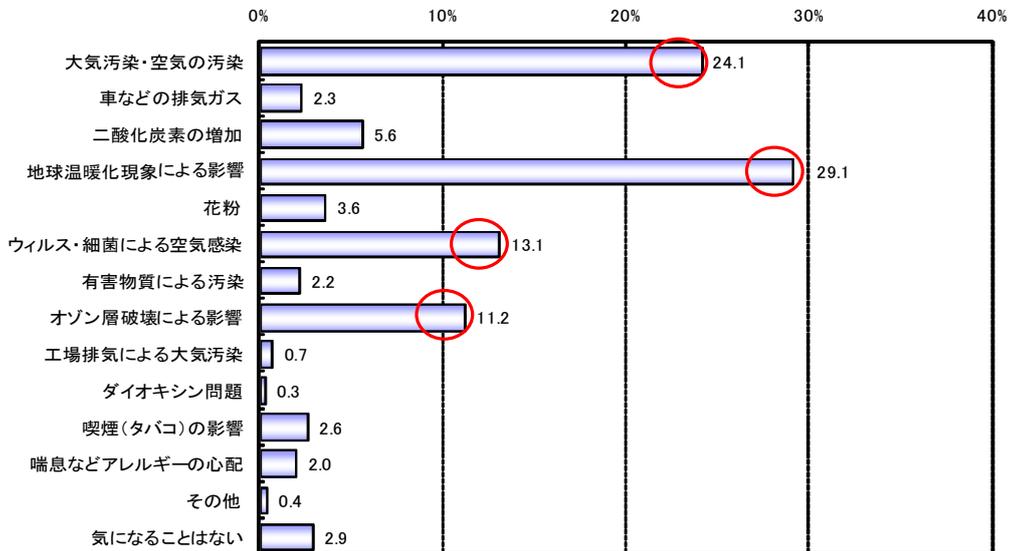


Ⅱ-2) 「空気」の意識に変化。「ウイルス・細菌による空気感染」が3位に急上昇。

「空気」については、具体的にどのようなことが心配かを聞いたところ、1位「地球温暖化」(29.1%)、2位「大気汚染」(24.1%)、4位「オゾン層の破壊」(11.2%)と、地球規模での環境破壊に対する心配が多く見受けられました。

その中で、「ウイルス・細菌による空気感染」は2002年、2007年では1%程度と少数意見でしたが、今回3位という結果になっています。パンデミック騒動の影響で、空気に対する不安要素に変化が生じたことが明らかになりました。

図5:「空気」について心配なこと(気がかりなこと)は何ですか？最もあてはまるものをひとつお選びください。 <n=10300>



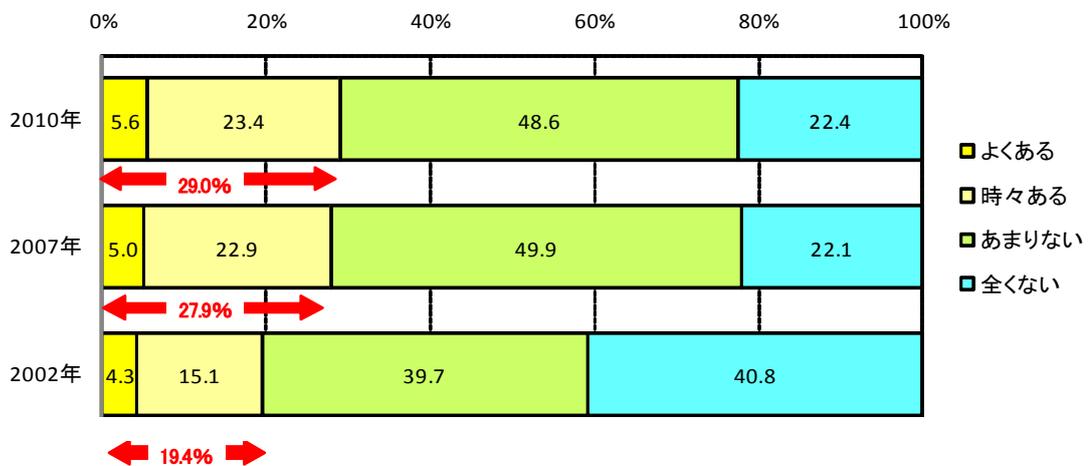
Ⅲ. 無料(タダ)モノ「空気」のコスト意識高まるも、月 1,281 円で節約傾向続く

Ⅲ-1)「空気」のコスト意識が“ある”人は年々増加傾向。2002年に比べ1割上昇。

「空気」に対してコストを意識する人がどの程度いるのかを、2002年、2007年の結果と比較しました。コスト意識が“ある”と回答した人は、「よくある」と「時々ある」を合計すると、2002年では約20%、2007年では約28%、2010年では29%と、年々増加していることが分かりました。

様々な環境破壊問題やパンデミック騒動の影響を受け、8年間で、“空気はタダ”という概念が薄れつつあることが分かります。

図6:「空気」に対して、コストを意識することがありますか? <n=10300>



Ⅲ-2)1カ月のおいしい空気代は、平均 1,281 円。空気に気前がいい県は「宮崎県」で平均 1,854 円。

「おいしい・快適な空気」を1か月得るために出してもよいと思う金額を聞いたところ、「1～1000円未満」(40.4%)が最も多く、次いで「0円(必要ない)」(27.9%)となっています。Ⅲ-1) (P6) に記した通りコスト意識は感じるものの、できれば「お金はかけたくない」と思う人が引き続き高い割合を占めていることが分かりました。

特に過去の調査と比較すると、「0円(必要ない)」と回答した方が過去最高の27.9%となっており、リーマン・ショック以降の不況に加え、今年の高円による経済不安が「空気にお金をかけたくない」という意識を高めたと推察されます。

2010年の平均金額は1,281円となっており、2007年の1,144円とほぼ変わらず、節約傾向が続いていることが分かります。

平均金額を年齢・性別でみると、最も高かったのが20～24歳の男性で2,246円、最も低かったのが40～44歳の女性で1,039円となり、家計を預かる主婦は特に、財布の紐を固くしていることが伺えます。

都道府県によっても、様々な傾向が見られましたので、特徴的なものを以下に挙げます。

<宮崎県>

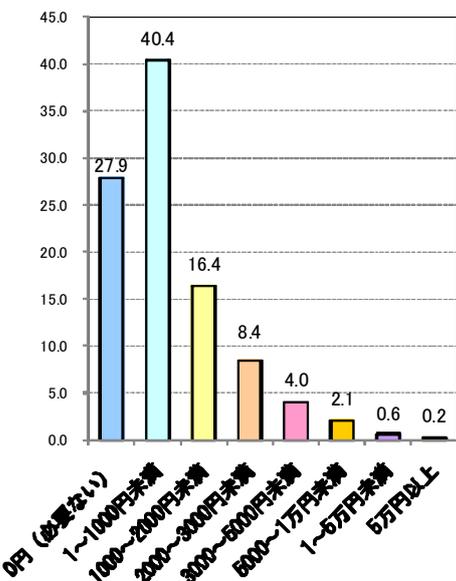
最も空気に気前がいい県。 県平均 1,854 円で全国1位。

<沖縄県>

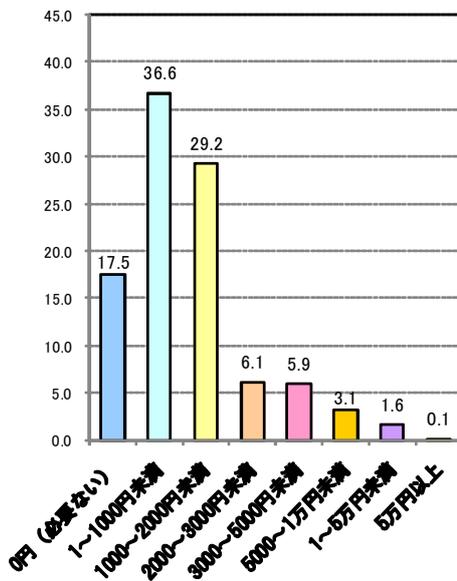
最も男女のギャップがある県(男女の平均金額の差が第1位)。
 男性の平均は587円、女性の平均2,548円で、その差は1,961円。
 県平均 1,713 円で全国3位。

図7:「おいしい・快適な空気」を1か月間得るために出してもよいと思う金額は？

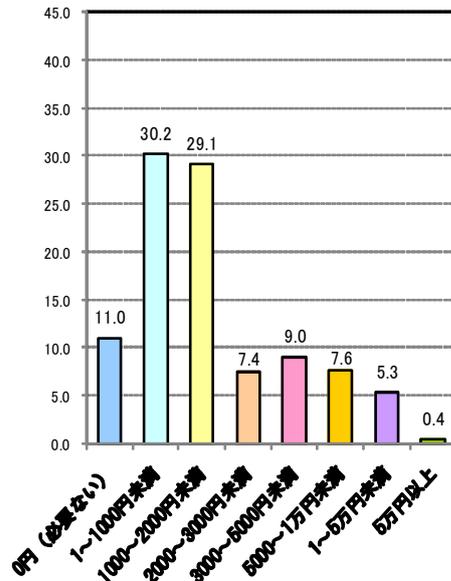
<2010年> 平均 1,281円 <n=10300>



<2007年> 平均 1,144円 <n=10000>



<2002年> 平均 2,125円 <n=7341>



【平均金額 都道府県 TOP10】

順位	都道府県名	平均金額
1	宮崎県	1,854 円
2	熊本県	1,718 円
3	沖縄県	1,713 円
4	福井県	1,569 円
5	静岡県	1,557 円

順位	都道府県名	平均金額
6	愛媛県	1,556 円
7	東京都	1,520 円
8	香川県	1,440 円
9	埼玉県	1,418 円
10	千葉県	1,410 円

Ⅲ-3)「おいしい・快適な空気」を得るために、普段は「空気清浄機」、たまには「緑・森林浴」。

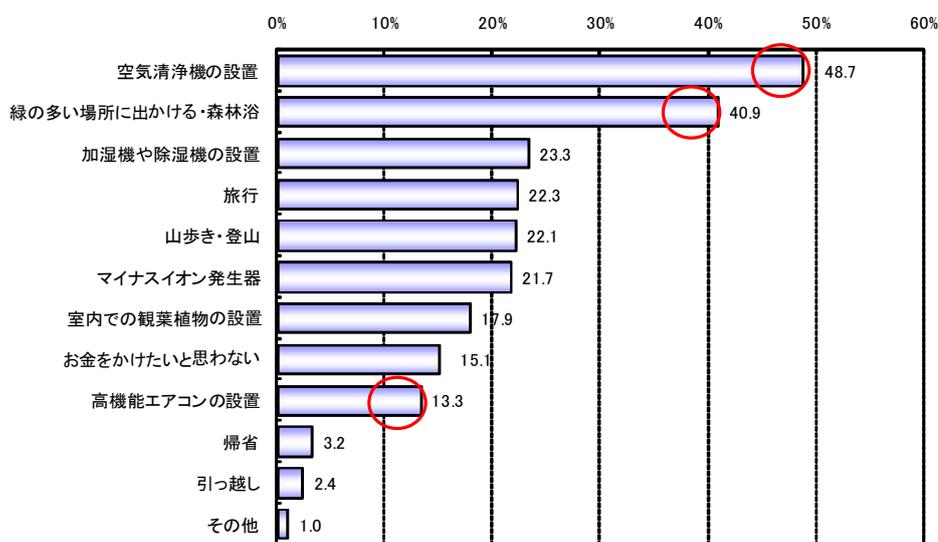
「おいしい・快適な空気」を得るために、具体的にどのようなことにお金をかけたか（かけたいか）を聞いたところ、1位「空気清浄機」（48.7%）、2位「緑の多い場所・森林浴」（40.9%）という結果になりました。

「緑の多い場所・森林浴」は昔から「おいしい・快適な空気」を得る方法として大きな支持を得ています。最近では新たに、自然と深く関わる“パワースポットめぐり”や、自然に触れることで癒し効果があると言われる“ヒーリングツアー”などが人気を集め、旅行会社などが新しいビジネス展開をしています。

その「緑の多い場所・森林浴」を上回り1位となったのが「空気清浄機の設置」です。「緑の多い場所・森林浴」はたまに出かける“非日常的”なものであるのに対し、「空気清浄機」は“日常的”に「おいしい・快適な空気」を得る手段としてのニーズが高いようです。

一方で、日常生活の場面では、「高機能エアコンの設置」（13.3%）と回答した人は少なく、「空気清浄機」は「エアコン」よりも「おいしい・快適な空気」を得られるといった認識が確率されつつあります。

図8:「おいしい・快適な空気」を得るためにお金をかけた(かけたい)ことはありますか? <n=10300>



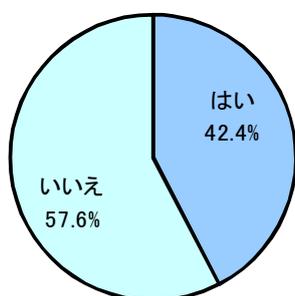
Ⅲ-4) 全体の4割以上の人々が、空気清浄機を所有。

空気清浄機の所有について聞いたところ、4割以上の人々が「所有している」ことが分かりました。所有している人の平均所有台数は、1.34台となっています。

地域別で見ると、全国で比較的所有率が高かった地域は「近畿」で、46.3%となり、ほぼ2人に1人は空気清浄機を所有しているという結果になりました。空気清浄機の市場は、昨年の新型インフルエンザ騒動を受け、1.5倍に拡大しました（P9：参考資料1）。近畿圏は、国内で初めて感染者を確認し、その後急速に感染者数が拡大するなど、最も大きく影響を受けた地域でもあったため、所有率が高い結果になったものと考えられます。

また、子供の有無でも所有率に傾向が見られ、子供をお持ちの方の所有は48.9%と、こちらも2人に1人が所有していることが分かりました。

図9:あなたは空気清浄機を所有していますか? <n=10300>



コラム ～健康促進のための空気清浄機に対する期待～

1. ウイルス対策としての空気清浄機への期待

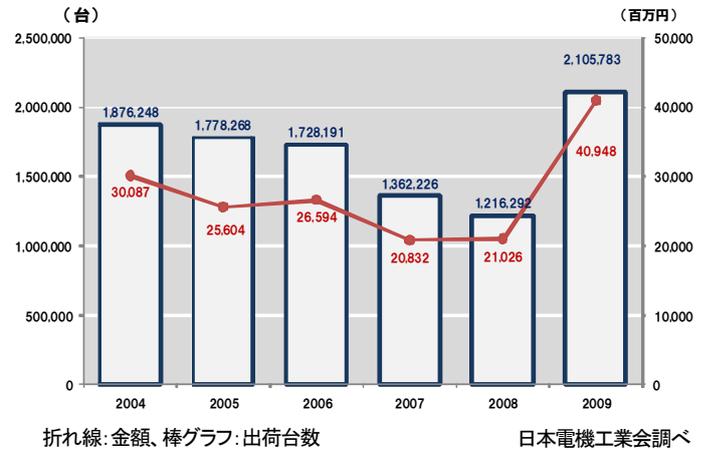
2009年4月、メキシコで確認された新型インフルエンザは瞬く間に世界中に広がり、WHOは同年6月、わずか2か月余りで危険度を最終段階の「フェーズ6」まで引き上げ、パンデミック(世界的大流行)を宣言しました。

日本国内でも、学級閉鎖・学校閉鎖が相次ぎ、予防接種、ワクチン不足、マスクの品切れが続くなど、様々な問題が発生したことは記憶に新しいところかと思えます。どんな場面においても、空気は切っても切れないものとなっています。

空気清浄機は2002年から2004年までは年間出荷台数ベースで、約180万台を推移していました。2005年以降、徐々に需要の減少傾向が見られましたが、2009年のパンデミックを受け、需要が急伸。対前年比で、約1.5倍の市場拡大となりました(台数ベース)。

普段、なかなか意識しづらい空気に関する危機感が顕著に表れた結果となったのではないのでしょうか。

参考資料1: 空気清浄機の販売額と出荷台数



2. 花粉症対策としての空気清浄機への期待

参考資料2: 花粉症の人1,000人に聞いた「部屋の空気を快適にするためにしていること」

空気の影響を受けやすい病気といえば、「花粉症」です。その有病率の全国平均は、2008年には29.8%となっています。

特に、来春のスギ・ヒノキ花粉のシーズンは、この夏の猛暑の影響で、花粉の飛散量が、今年の5倍、地域によっては10倍以上とも言われています。

ダイキン工業では、2010年の花粉シーズンに、花粉症の方1,000人を対象に予備調査を行いました。

「部屋の空気を快適にするためにしていること」を聞いたところ、断トツの1位は、「空気清浄機の使用(27.9%)」という結果でした。そのほかの対策も上がっていますが、その圧倒的な回答数からも、その期待度が伺えます。

花粉症の方は、花粉が飛び交う季節、家庭内だけでなく、あらゆる場所で、花粉に接する可能性があります。今後は職場や宿泊先、公共施設など、さまざまなシーンで空気清浄機が求められることとなるでしょう。

	件数
空気清浄機を使用	279
換気をする/窓を開けて換気する/空気の入れ替え	90
こまめに掃除をする/掃除機をかける	73
窓を開けない/換気を控える	58
加湿器を使用/加湿する	27
換気扇/24時間換気	20
帰宅後に衣類の花粉を払う/家に花粉を持ち込まない	18
洗濯物や布団を外に干さない	17
アロマを焚く	15
エアコンの空気清浄機納/花粉フィルター	13
花粉対策スプレー	11
拭き掃除をする/モップの使用	10
洗濯物を取り込む前に花粉を払う	9
空気清浄機の購入を検討中	7
プラズマクラスターを使用	6
イオンを発生させる	6
マスク	5
除湿機を使用/除湿する	4
ダイソンの掃除機を使う	2
うがい	2
シャワー/風呂に入る	2
カーペット等を使わない	2
目薬	2
コロコロを使う	2
その他	9
特になし	311

- 調査主体: ダイキン工業株式会社
- 調査方法: アンケート調査(インターネット調査による)
- 調査期間: 2010年3月12日(金)～3月15日(月)
- 調査対象: 全国20～60代の花粉症の成人男女
- 回答人数: 1,000名(男性500名、女性500名)

IV. 空気の3大理想郷は、「屋久島」「日本アルプス」「白神山地」

IV-1) 国内は「屋久島」が2連覇。常連の「富良野」を僅差で上回り「白神山地」が初のベスト3入り。

IV-2) 海外は「アルプス」が3連覇。「ロッキー山脈」「モンゴル大草原」と続き、2007年と順位変わらず。

国内で、心地よい空気が流れている場所を聞いたところ、2007年に続き「屋久島」が1位に選ばれました。JTBが行った調査「行ってみたい日本の世界遺産」でも1位に選ばれたことがあり、最近では“パワースポット”としても人気を集めています。

さらに今回は、「白神山地」がドラマ「北の国から」で人気を博し過去2回ベスト3に選ばれていた「富良野」(15.4%)を僅差で破り、3位に入りました。「屋久島」、「白神山地」とも、その手つかずの大自然、原生林が世界遺産に登録されており、そこに「心地よい空気」の存在を感じている人が多いようです。

海外では、ベスト3の順位に変動はなく、「アルプス」が59.5%と圧倒的な回答数で堂々の3連覇を果たしています。

国内の「屋久島」と、海外の「アルプス」は、心地よい空気が得られる場所といったブランド化が進んでいるようです。

【国内】

2010年

1位	屋久島	33.0%
2位	日本アルプス	23.8%
3位	白神山地	16.0%

2007年

1位	屋久島	27.0%
2位	日本アルプス	20.2%
3位	富良野	14.6%

2002年

1位	富良野	23.0%
2位	屋久島	20.5%
3位	日本アルプス	19.5%

【海外】

2010年

1位	アルプス	59.5%
2位	ロッキー山脈	19.9%
3位	モンゴル大草原	13.6%

2007年

1位	アルプス	52.8%
2位	ロッキー山脈	18.2%
3位	モンゴル大草原	11.5%

2002年

1位	アルプス	34.9%
2位	ロッキー山脈	17.4%
3位	エーゲ海	16.0%

《参考：11月9日(いい空気)は、「換気の日」について》

社団法人日本電機工業会が、1987年(昭和62年)に制定したものです。最近の住宅はアルミサッシの普及等で気密性が高く十分な換気が行われないことから、室内の換気を見直してもらうことを目的としています。

■報道機関からのお問い合わせ先

ダイキン工業株式会社 コーポレートコミュニケーション室

【本社】 〒530-8323 大阪市北区中崎西二丁目4番12号(梅田センタービル)
TEL (06) 6373-4348 (ダイヤルイン)

【東京支社】 〒108-0075 東京都港区港南二丁目18番1号(JR品川イーストビル)
TEL (03) 6716-0112 (ダイヤルイン)